

令和7年3月

弥

あ お ぞ ら

生

第409号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「よさ（可能性）」を広げる体験活動

鹿屋市立笠野原小学校 校長 満田 忠

3学期の始業式でこんな話をしました。

「皆さんは自分がなりたいものになれる可能性があります。(中略)私の娘は勉強嫌いでした。宿題もせずに暗くなるまで外で遊んでいる小学生でした。ある時、ALTの先生から「あなたの発音はいいね!」と褒められたそうです。それから英語の音楽を聴くようになり、さらには英語検定にも挑戦し、どんどん英語が好きになっていきました。英語が話せるようになったことで、海外にも友だちができ、その交流は今も広がっているようです。英語との出会いが彼女の可能性を広げたと言えます。可能性は、自分のよさを生かすということです。小学校では、自分の好きな勉強だけをすることはできません。小学校で学んだことは、大人になって社会に出たときに役立ちます。自分の可能性を見つけるためにはどんな勉強が役に立つか、今すぐにはわからないからです。でも、全ての勉強は全ての夢につながっています。

自分の可能性を見つけるためにはいろいろな体験することも大切です。いろんなところに出かけて、苦手なことにもどんどん挑戦しましょう。自分の可能性を見つけるきっかけは自然との出会い、人との出会い、本との出会い、そして、今は興味がないと思っている日々の学習の中にあります。今日の勉強が皆さんの可能性を広げてくれます。」

さて、私が、これまで携わってきた社会教育の場で、今でも強く印象に残り、子どもたちに挑戦してもらいたいと思う事業があります。鹿児島では「ふるさと学寮」全国的には「通学合宿」と言われる事業です。平成のは

じめに、補助事業としてはじまり県下に広まり今でも続いている事業です。小・中学生が家庭を離れ、身近にある青少年教育施設や公民館等で1週間程度、異年齢による共同での宿泊生活をしながら学校に通学する取組です。事業効果として、①子ども：自主性、生活力、協調性が身につく、規則正しい生活ができるようになる。②保護者：子どもと地域のつながりや、家庭教育について考えを深める機会となる。③地域：地域の絆が深まり、ボランティア活動への参加意欲が高まる。などがあります。学校では自分らしさを発揮できない子どもが、異年齢の活動の中で生き生きと活動する姿を見ることがあります。また、自分の居場所を見つけて、地域活動に積極的に参加するようになる子どももいます。鹿屋市では、国立大隅青少年自然の家が「おおすみくん家・通学合宿」を実施し、本校からもたくさん参加しています。子どもたちの挑戦に大いに期待しています。

コロナ禍以降、子どものための居場所が少ない、旧来型の組織の衰退、地域活動の機能低下など、解決が容易でない課題が顕在化しています。こんな時代だからこそ、これからの社会を担う子どもたちに自分の可能性を広げ、なりたい自分に出会えるための体験活動の場を確保してあげることが、大人の役割だと思います。

